

令和7年度 地域を志向した研究 成果報告書

テーマ		伊豆半島の育児のための地域小規模コミュニティ創造とその効果 ～ヒトとしての子育てに原点回帰～			
研究 組 織	代表者	所属・職	看護学部 准教授	氏名	鈴木和香子
	連 携 研 究 者	所属・職	氏名	所属・職	氏名
		看護学部 准教授	中川 有加		
		看護学部 准教授	鈴木 千智		
		看護学部 非常勤	大竹 恵子		
		看護学部 4年生	榎本 美和		
研究の目的、 内容、方法、 研究成果、 今後の課題等	<p>【研究の目的】</p> <p>① 伊豆地区への子育て環境の現状調査 ヒト本来の子育ては血縁を超えた利他性に支えられたものであり、母親以外の他個体が協働養育をすることが重要である（明和, 2013）。県内で特に少子化が著しい伊豆半島に、小規模育児コミュニティを発生させ、そのコミュニティに参画することの効果を探るべく、子育て中の地域住民（保護者）へのプレインタビュー調査を目的とした。</p> <p>② 高校生・大学生への正しい性の知識を得る場の提供 若者がインターネット等の不確かな情報に晒される現代において、意図しない妊娠や性感染症（STI）のリスクなどが問題視されている。本来なら学校や家庭で科学的かつ人権に基づいた対話を行うべきであるが、現状では十分な性教育が施されているとは言い難い。今回、高校生や大学生に身近な存在である看護学生が、自らの欧米の性教育について見聞きした経験を活かし、同年代の思春期～青年期の男女に行った性教育の場の提供の効果を図った。</p> <p>【内容と研究方法】</p> <p>① 伊豆地区における、子育て世代が多く集うと思われる商業施設、地域の薬局等に出向き、地域の子育て状況について保護者にインタビューをする。</p> <p>② 東部地区を中心としたプレコンセプションケア、スウェーデンのユースクリニックの視察から得た知見を活かし、看護学部の学生団体を立ち上げ、実際のイベント等で情報発信や体験会を開催する。その内容と成果についてまとめる。</p>				

<p>研究の目的、 内容、方法、 研究成果、 今後の課題等</p>	<p>【研究成果】</p> <p>① 伊豆地区では下田市の東急ストア、伊東市のうさぎ薬局で子育て世代の環境についてインタビューを行った。</p> <p>得られた内容として、「小さい赤ちゃんが夏に屋内で遊べる場所が欲しい」「小さい子を遊ばせる場所がない」「土日に滑り台やブランコなどの遊具がある場所が欲しい」「母親の仕事が忙しく、仕事を切り上げて早く帰ることが大変だった、子育ての支援が欲しい」「熱性けいれんを起こしたとき、救急車をよんだが病院に着くまで2時間半もかかった、小児医療が心配である」「夜間の小児を見てくれる病院がない」「下田市で医療相談できるアプリの配信があったが、本当に活用できるか不安」などの意見が得られた。</p> <p>② (資料添付)</p> <p>【今後の課題】</p> <p>① 今回は本格的調査に入る前のプレ調査となったが、多くの課題があることが分かった。伊豆地区の少子化のスピードは極めて速く、自治体が策を講じているもその対策は功を奏さないのが現状である。これからさらに現場の声を集め、しかるべき学会に発表していくことが必要と考える。</p> <p>② 4年生の看護学部の学生が主体の団体であるため、継続が課題である。現在、1・2年生の参加者を募集しており、活動継続の見通しは立っているが、5年後10年後の見通しが極めて困難である。</p>
---	---

※別途研究成果資料を添付する。

令和 8 年 3月 24日提出